

◆地域活動

宮古島漁協青壮年部活動支援(宮古地区)

宮古農林水産振興センター 津波古竜器・吉田聡

1. 目的

宮古島漁業協同組合には過去、青壮年部が存在していたが、近年は活動実態がなく、解散状態となっており若い漁業者の交流の場が少ない状況にあった。そこで、漁協青壮年部の発足および活動を支援することで若い漁業者間の交流の場を創出し、地域漁業の活性化に取り組むこととした。

2. 活動内容

沖縄県漁協青壮年部連絡協議会（漁青連）の伊良波副会長から依頼を受け、平成28年9月15日に宮古島漁協所属の若い漁業者らと意見交換会を実施した。10月11日には、漁青連役員及び事務局が宮古島漁協を訪問し、青壮年部活動に関して説明を行った。出席者からは活動の意義やメリット、活動資金造成の方法などについて活発に質問が上がった。同日、加入希望者らの議決により宮古島漁協青壮年部が発足した。10月20日には規約制定や役員選任、今後の活動計画についての会合を行った。

活動の第一弾として魚食普及、漁業 PR、および活動資金の造成を目的に、11月20日に行われた宮古の産業祭りへ出店し、グルクンの唐揚げを販売することとなった。準備は、漁業の合間を縫って原料となるグルクンを釣りに行ったり、一次加工、冷凍などの作業を協力して行ったが思うように原料が集まらずに苦慮していた。産業祭り当日は多くの客で賑わい、出だしは好調であったが、午後からは荒天により途中で販売を切り上げることとなり、最終的な売り上げも低調に終わった。

3. 課題および今後の取り組み

今後の青壮年部活動としては荷川取漁港内での朝市などを予定しているが、産業祭りに出展したことで「原価計算の重要性や原料確保の困難さなどイベント運営の難しさ」を実感したことから、より慎重に計画を行う必要がある。また、部員間で活動に対する温度差が見られるため、明確な目標を設定した上で、役員や事務局と連携を密にし活動の支援を行っていきたい。



漁青連役員による説明会



産業祭りに向けた準備作業